

事業の背景・目的

カンムリワシ（*Spilornis cheela perplexus*）は、八重山諸島の固有亜種であり繁殖個体群は石垣島及び西表島に限られている。また、保全カテゴリーは絶滅危惧種IA類（CR）（環境省）に分類され、天然記念物に指定されているなど希少な鳥類である。本事業の試験地である名蔵地区ではカンムリワシが道路を餌場としていることが確認されており、ロードキルの問題が発生している。ロードキルを防ぐため、休耕田を復元したビオトープにおいて生物多様性の土台を形成し、餌場の誘導が行えるか効果検証を行う。

事業の内容

事業① カンムリワシ生息及び生物多様性創出検証モニタリング
休耕田を復元させたビオトープにおいてカンムリワシ生息及び生物多様性創出の検証を行うためのモニタリング調査を行う。

- ・カンムリワシ生息状況調査として、試験地を含む広範囲を網羅するルートを設定し計5回※カンムリワシのセンサスを行った。
- ・水生生物生息調査としてビオトープ内に7ラインを設定して、1ライン25回(20分～30分)すくい採り採取方法による生物調査及びロードセンサスを計6回※行った。

※内5月調査分は受託事業者独自事業として実施

調査方法



- ロードセンサス
 - ・全長16.3kmのルート
 - ・1日4回
 - 午前、午前
 - 午後、夕方
 - ・自動車で行きながら、カンムリワシを探索
- 定性観察（行動など）
 - 5月（卵期・雛期初期）
 - 7月（雛期後期）
 - 9-10月（独立期）
 - 12月（非繁殖期）
 - 1月（非繁殖期）
 - 各月、風の強い3日間



カンムリワシ生息調査

ビオトープ生息調査

得られた成果

1,901㎡の休耕田をビオトープに造成し、水生生物等の生息調査を行った結果、環境省レッドリスト掲載種1種（コガタノゲンゴロウ成虫・幼虫）を含む15種類の水生生物が確認された。また、カンムリワシ生息状況調査は、当該ビオトープを含むエリアにおいて成鳥9羽・若鳥1羽・幼鳥2羽の生息が確認された。次年度以降は、引き続き季節の変遷やビオトープの環境変化により水生生物等に与える影響をモニタリング調査し、生物多様性が育まれるビオトープ運用の知見を集積していくとともに、新たに休耕田を借地し、自然農法による稲作環境における水生生物等の発生状況をモニタリング調査していく。また、教育委員会と連携して自然観察など当該エリアを活用した「総合的な学習の時間」のカリキュラム導入の検討していく。

カンムリワシの生息状況

